

# 長岡京左京三条三坊十六町跡 発掘調査

調査地	京都市伏見区久我西出町5番15
調査期間	平成30年12月4日～平成31年3月中旬(予定)
調査面積	約1200㎡
調査原因	工場施設の新設
計画機関	京阪セロファン株式会社
調査機関	有限会社 京都平安文化財

## 1. はじめに

京阪セロファンの工場敷地内の北西部において、施設の建設工事に先立ち、京都市文化財保護課の指導の下に同社から依頼を受けて、昨年12月から今年の3月中旬までの予定で発掘調査を実施しています。

調査対象地は、西羽束師川と桂川との間の低地部に位置しています。弥生時代や古墳時代頃の集落遺跡等は、調査地から北西部の地域に、鶏冠井遺跡等の古くからの著名な遺跡が幾つも展開しています。その時代にはこの地域は、耕作地としての土地利用が主であったようです。長岡京の町名では左京(天子南面して左手となる都の東半側)の北部となる、二条大路に面した左京三条三坊十六町となり、推定の条坊区画では、調査区は同町の南西区画に位置しているようです。

長岡京は784年(延暦3)から794年(延暦13)の短命の都です。平安京以降の久我や羽束師など当地を含むこの地域は、水田等の耕作地へと戻っていき、田園地帯的景観は昭和にまで受け継がれてきました。昭和後期から平成にかけて急速に都市化が進み、現代にも発展が続く地域となっています。



図1 長岡京跡における調査地位置図 (1:20,000)

## 2. 調査成果

長岡京期の左京三条三坊十六町内の時代、断定はまだ難しいですが、推定1/2町使いと見られる邸宅跡の一角において、三棟の掘立柱建物跡を検出しました。

建物1は、調査区の南西部で検出し、身舎の梁間2間(1間約2.94m≒約10尺)×桁行5間(1間2.7m≒約9尺)の東西棟、南北の2面に庇が付き、庇の柱間は南北とも1間(2.94m≒約10尺)を測ります。柱の太さは、身舎で30cm前後、庇で25cm前後、建物の柱間を手掛かりにした面積は(3m×4間≒12m)×(2.7m×5間≒13.5m)=162㎡程となります。規模大きさと配置等から正殿(前殿)と見えています。

建物2・3は、南北に一列に並び、両者ともに柱間は、梁間・桁行ともに2.4m≒8尺等間の

南北棟です。身舎は両者とも梁間2間×桁行4間以上(推定5間か)です。建物3は、身舎南辺に1間(2.4m≒8尺)の庇が付きます。また両建物の東辺のあいだには、もう1本柱が立ち、塀状で連結しているように見えます。両建物面積は、8尺≒2.4mで2間×5間とすると、4.8m×12m=57.6㎡となり、現代の2LDK程の規模の建物となります。両建物ともに、正殿の東側に並ぶ脇殿と見えています。

建物の配列に関しては、推定半町使いと一町使いや柱間等と条件差はありますが、1980年頃の京都府による発掘調査で、平安京右京一条三坊九町(現山城高校)において調査された平安時代前期の邸宅跡の正殿と2棟の東脇殿の配置と非常によく似ています。同九町の建物配置は、寝殿造りの原型と見るのか否定的に見るのかで、研究者間の論争が起こったことでよく知られています。論争の的となった建物配置を持つ邸宅の出現が、長岡京の時代にまで遡る可能性が高いことを示した点は、注目に値する成果です。(図2参照)

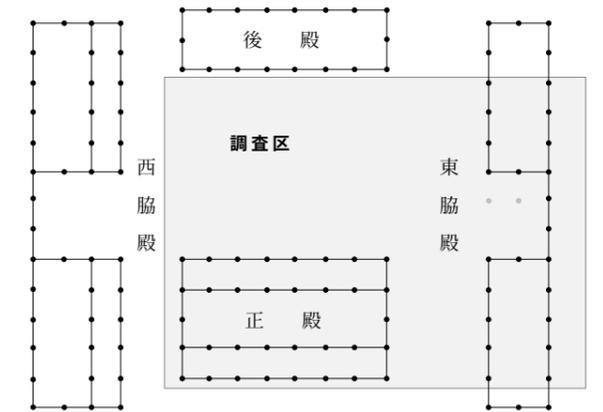


図2 今回の調査と京都市山城高校遺跡建物配置との合成概念図  
(参考文献:太田静六著『寝殿造の研究』吉川弘文館1987年)

## ・建物の成立基盤

長岡京期の遺構面は、西側2/3は上面がほぼ平坦に整地されており、建物1はその上面に建てられていました。しかし、東側1/3程は、湿地状の低地に暗灰色粘土が堆積して上面が平坦化していましたが、西2/3の宅地面に比べると30cm程は低く、一段下がった状況を呈していました。建物2・3はその段の下った低い面に建てられており、検討が必要な建物立地です。湿地状の立地にもかかわらず、柱穴から礎板等は検出されませんでした。このような点も検討が必要でしょう。

東側1/3程の低みの肩沿いには、幅1.5m程～2m強の浅い流路状遺構が走ります。

## 3. 出土遺物

各時代ともに出土遺物量は極少ないです。平安時代以降の出土遺物は、平安後期から中世前半と見られ、瓦器塚や土師器皿等の破片が、耕作地の水抜き用の竹を埋設した暗渠や同様の小溝等から少量出土したにとどまります。他には奈良時代末期頃の長岡京期に比定できる土師器坏・皿・塚・甕他、須恵器坏・皿・壺・甕片等が出土しており、柱穴の柱あたり、あるいは掘方からも小片ながら土師器皿や布目のつく平・丸瓦片等が出土しています。これらの出土遺物からは、柱穴等が長岡京期の内に建ち、また廃絶することを示しています。流路状遺構の上層部からは長岡京期、また下層～最下層では古墳時代から弥生時代の遺物が少量ながら出土しています。

## 4. まとめ

今回の調査では長岡京期の建物跡3棟を検出し、調査出来た点が最も大きな調査成果といえるでしょう。今後の整理・研究においてさらなる理解を進めたいと思います。なお、残る期間で湿地及び流路状遺構の調査を進めて、奈良時代以前の土地利用の様相も明らかにしてゆきたいと思っています。



写真1 調査地全景(東から) ※右手の上部付近に長岡宮跡



写真2 流路状遺構(北西から)



写真3 建物2・3(南から) ※推 脇殿

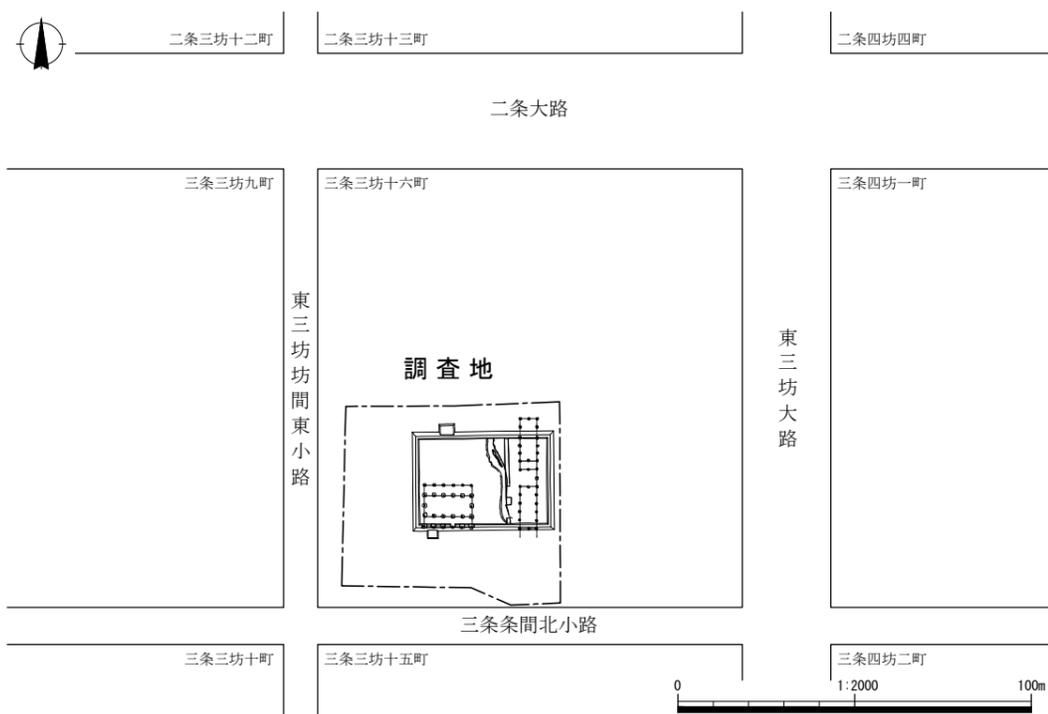


図3 長岡京条坊復元図 - 調査区位置と長岡京期検出遺構 (1:2,000)

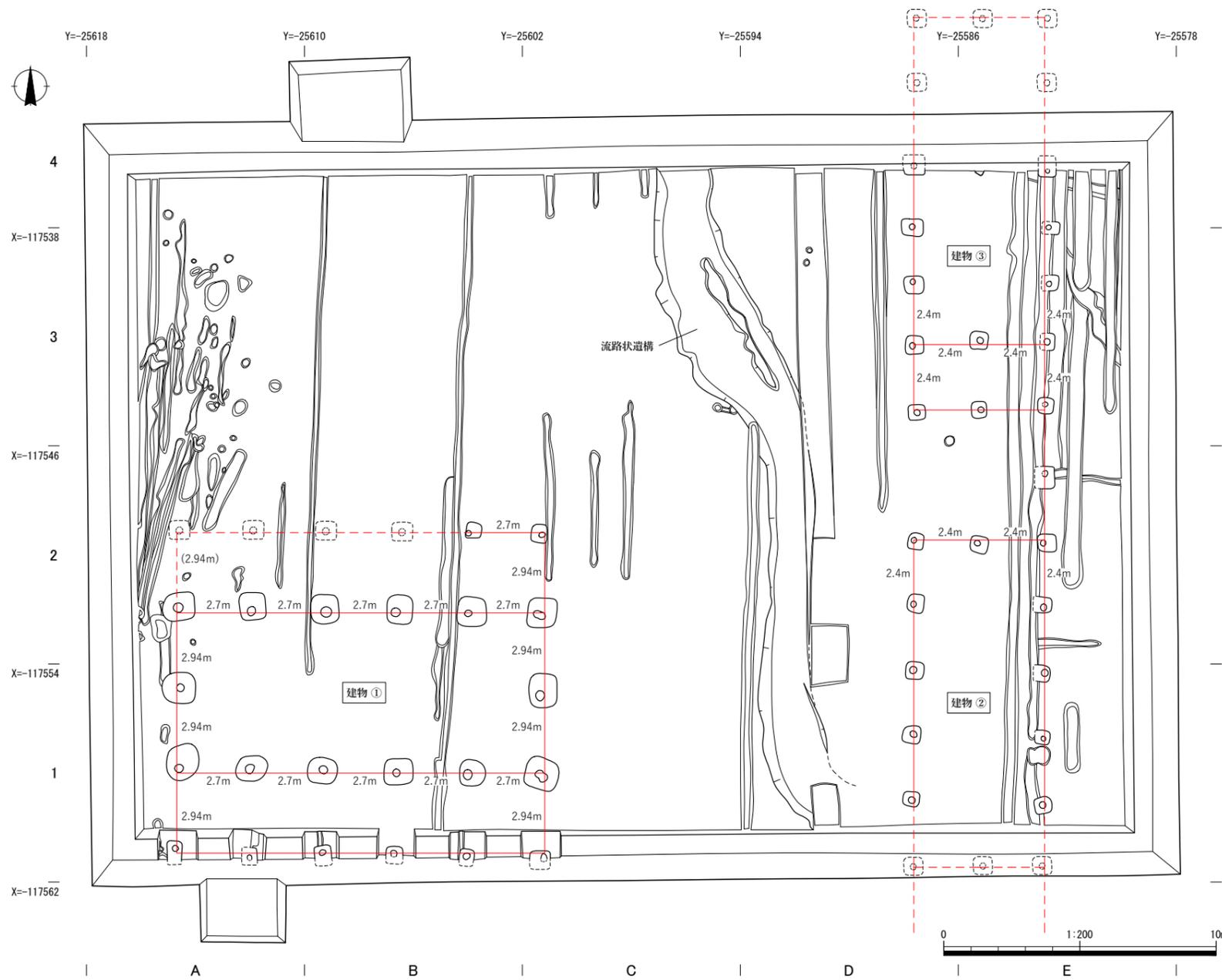


図4 長岡京期遺構平面図 (1:200)



写真4 建物1(南から) ※推 正(前)殿